



ぶどうのささやき

38号

2025年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

横須賀市の産業振興と中小企業支援の取り組み

新年あけましておめでとうございます。

産業クラスター研究会の皆様には、日頃より横須賀市の産業振興施策にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、横須賀市の産業は1871年に横須賀製鉄所が完成して以来、軍港都市として発展を遂げてまいりました。戦後には、造船・自動車メーカーの拠点設置を契機に、地域の中核産業として輸送用機械器具製造業が成長し、ものづくりの盛んな都市として歩んできました。現在も、製造業を中心とした多くの中小企業が横須賀市の地域経済の基盤を支えています。

横須賀市経済部では、こうした中小企業への支援を軸に、市内経済のさらなる発展を目指し、企業誘致、創業支援、農水産業振興など、さまざまな事業を行っています。

ここでは、経済部の具体的な取り組みについて、一部をご紹介します。

まず、中小企業支援において、新型コロナウイルスの収束によって、景気回復の兆しが見えるものの、物価高騰や労働力の不足など、中小企業を取り巻く課題は山積していると認識しています。その中で、経営者の高齢化や後継者不足問題に対しましては、事業承継を進めるための専門家活用費用への補助や啓発活動を行い、優良な事業所の廃業防止に努めています。

労働力不足対策としましては、外国人材の導入、副業人材の活用支援を行うとともに、合同企業就職説明会を開催し、市内企業への就職を推進しています。

経営支援施策としましては、制度融資として融資資金を市内金融機関に預託し、中小企業へ低利な融資メニューを提供するとともに、信用保証料を補助し、経営の安定と設備投資を促進しています。



横須賀市経済部
部長 石渡 修

また、中小企業にとり必要不可欠で、喫緊の課題であるDX化の推進につきましては、ICT導入にかかる補助金の交付、商工会議所と連携したIT導入やセキュリティ対策支援を行い、企業の生産性の向上を図っています。

このような中小企業支援に加えて、横須賀市は産業振興の分野において、「失敗を恐れない挑戦者を応援するまち」というコンセプトを掲げ、創業や新事業展開における環境整備、企業誘致の促進、設備投資対策など、新たなチャレンジに対する支援にも力を入れています。

さらに、農水産業振興の分野においては、「よこすか野菜」のブランド力向上や市外消費の拡大を目指した新たな取り組みとして、都内飲食店による市内生産地訪問ツアーや市外での出張販売会などを実施しています。

これからも横須賀市の経済、産業のより一層の発展のため、経済部一丸となって、取り組んでまいります。地域経済の発展には、企業をはじめ、市民、関係団体の皆様の協力が必要不可欠です。貴会におかれましても、現役時代に様々な分野で培われた会員の皆様のスキルや豊富な経験を地域経済の発展にお役たていただきたく、変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

結びに、貴会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍を心より祈念申し上げます。



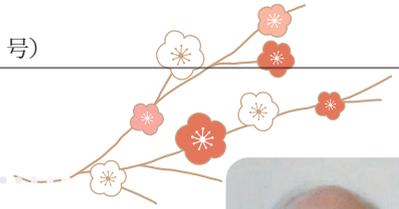
クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。



理事長挨拶

新年あけましておめでとうございます



平素より当会の活動に対し多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

お蔭様を持ちまして昨年2月には当会の発足20周年記念行事を盛大に執り行うことができ、上地横須賀市長、篠原県政総合センター長のご出席も賜りご祝辞も頂戴致しました。

20年の長きに渡り当会の活動を支えてくださった多くの関係者の皆様、個人及び法人会員の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

本年から又新たな活動の20年を目指し、会員一同皆様の課題解決に向け一層の努力をいたす所存ですので変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

日本経済は長きに渡ったコロナパンデミックの影響からようやく抜け出し、円安の恩恵を受けた大企業は空前の利益を計上して昨年の春闘では大企業を中心に5%台の賃上げを達成しましたが、逆に円安による資材や光熱費の高騰の影響を受けながら価格転嫁が思うように進まないために同様な賃上げが困難な中小企業も多いと聞きます。

中小企業が生き残るためには更なる生産性の向上や新たな製品の開発、販路の開拓、経営のDX化等が重要な課題と思われ、私共の活動の目的はその手助けをさせていただくことですが、まずは大企業や国が率先して中小企業が利益を上げられる具体的な道筋や施策を示すことが必要だと考えます。

昨年暮れには米国でトランプ次期大統領が選出され、早速アメリカ第一主義を唱えて関税の一方的な引き上げを宣言しています。

関税の引き上げはインフレの要因となり、その影響でアメリカの金利が引き上げられれば再び円安が進行する恐れがあります。



理事長 富野 養二郎

日本は長く続いたデフレ状態や円安のために国際的にみて既に「安い」国になってきてしまっているのではないのでしょうか？

昨年たまたまトルコに行く機会があり物価は比較的安いのかと思っていましたがそうでもありませんでした。

トルコ通貨のリラはこの5年で75%程下落してインフレ率が年60%以上と説明されましたが、レストランで頼んだ小瓶のビールが円換算で1100円から1200円、ホテルのラウンジで頼んだグラスワインは一杯3~4000円相当もしました。

帰りの空港で土産用のチョコレートを買い求めようとしたのですが価格がユーロ表示で30~40ユーロもしたので断念しました。

米国や欧州での円安ぶりは既に報道されていますが、通貨の安いとされた国においても同様な事が起こっているようです。

「ゆでガエル理論」ではありませんが、日本は「なんとなく豊かな国」と皆が考えている内に平均年収は既に韓国に抜かれ世界24位(2023年)となっています。

我々戦後世代は様々な工業製品を世界に送り出し、外貨を獲得して日本が豊かになって行く過程を経験しましたが、現代の日本を取り巻く世界の政治、経済の環境は大変厳しいものがあり、これからの世代を担う人々は我々とは違った価値観や発想を基に新たな未来を切り開いて行く必要があるのかもしれない。

【歳時記】 茅(ち)の輪くぐり

私の住んでいる街の神社では毎年初詣が行われます。大晦日の深夜十二時近くになると、参詣者が近所のお寺からの除夜の鐘をききながら、三々五々集まってきました。参詣者は、神社の階段下の鳥居に取り付けられた茅の輪の前で、新年を待ちます。

午前零時とともに、茅の輪に張られた縄が外され、待ちかねた数十人の初詣客が次々と茅の輪をくぐり一年の厄を落として参拝に階段を登っていきます。

どこにでもありそうな小さな神社ですが、一時までの一時間ほどの間に毎年二百人近い初詣客の参拝があり、地域の鎮守様のご利益があります。また、多くの人が近所の神社巡りをされているようです。

この茅の輪、須佐之男命まで起源がさかのぼります。日本各地に同様な伝承がありますが、釈日本紀によると、須佐之男命が嫁探しの旅に出て旅の途中で日が暮れて、ある村の巨匠(こたんしょうらい)という長者に一夜の宿を求めたが断られてしまいます。次にその兄弟の貧乏な蘇民将来(そみんしょうらい)に宿を乞うと「狭いところで

すが」と快諾し、丁重にもてなします。そのお礼に茅の輪を授けて、蘇民の子孫は目印に茅の輪をつけるように言い残します。しばらくして村に疫病がはやり蘇民の子孫以外は皆死んでしまいます。こうして茅の輪をくぐることでその年の厄を落とす慣習ができました。

年の瀬の週末に皆で初詣を迎える準備をしますが、その時に茅の輪作りも行います。まず近くの草地で茅を刈ってきます。稲わらを束ねた芯に茅を巻き付けていきます。タコ糸できつく縛りながら芯が見えなくなるまで丁寧に巻き付けていきます。完成した茅の輪を鳥居に吊るして、しめ縄をつけると正月を迎える支度が出来上がります。

正月も終わり初詣客の厄を引き受けた茅の輪もお役御免です。正月明けの休日に皆で後片付けに集まります。茅の輪を下ろし、茅を外して初詣客の厄と一緒に焼納すると、新しい一年が本格的に始まります。(清)

(注) ものの本によると、正しい「茅の輪くぐり」の仕方は、くぐったらまず左に回って、今度は右に回り、もう一度左に回ってから最後に茅の輪をくぐって参拝だそうです。初詣では時間がないので一回くぐるだけです。



事業活動紹介

ニフコ本社 技術開発センター訪問記

公共支援グループ 安藤 誠四郎



かつて、サラリーマン時代に自動車会社に勤務し、車両組み立て技術者として働いていた時、樹脂クリップ類メーカーのニフコ社と開発を共に進めたことがあった。今年の3月、ある会で知人を介してそのニフコ社の方と知り合った。話してみると昔の樹脂クリップメーカーから今や大発展し、自動車関連樹脂クリップ類から、住宅設備関連機能樹脂部品や電池レスデバイスによる IoT 関連製品まで手掛けているという。さらに、本社および技術開発センターが当会の事務所と同じ YRP の敷地内にあると聞き、早速近況を伺いに5月、少数の個人会員で訪問した。今回はより大勢の個人会員と法人会員企業メンバー合わせて15名で訪問し、ニフコ社の会社概況と開発分野の近況説明を受けた。

YRP 横須賀本社地区 ニフコ技術開発センター 訪問

緑に包まれた YRP の広大な敷地の右手に大きな建物群があり、一番奥が技術開発センターで、Life Solutions Company コネクテッドビジネスユニット長 中村高章氏に迎えられた。3階会議室にて会社概況製品群の説明、各種プロジェクトの概況説明を受けた。特に今回は新開発の電池レスセンサーによる IoT ソリューションシステムについて、詳しく説明を聞き今後の展開の広がりを感じた。一方まだ乗り越えるべき多くの課題があることも認識した。

ニフコ社は『変化をチャンスと捉え、「提案力」「品質対応力」「グローバル展開力」の強みを進化させ、成長を目指す』との柴尾雅春社長兼 CEO の方針をもとに、企業価値向上の活動を国内および海外に広く展開している。



主要商品群

- 1) 自動車&モーターサイクル用各種樹脂製品群：締結部品、インテリア部品群、先進運転支援システム関連部品、外装部品、パワートレイン関連部品など
- 2) 住生活関連、ファッション関連各種部品群
- 3) IoT ソリューション関連システム（新規開発分野）

今回、同じ YRP 地区に拠点を持つニフコ社を訪問したが、これを機会に何らかの関連で今後ともお互いの連携が取れて関連企業に役立てれば幸いと考える。

第9回情報セキュリティ・セミナー（10/22）開催報告

情報セキュリティグループ

槌谷 祐一



2015年11月に第1回の情報セキュリティ・セミナーを開催した。以後年に一度、その時期のトピックスを取りあげて対面で実施してきた。しかし、2019年にコロナパンデミックが発生し、以後は対面では実施できず、オンライン通信で実施した。それを引継ぎ、今年度は第9回セミナーを10月22日（火）に下記テーマで実施した。

- 1) スマホのセキュリティ 講師：伊澤俊夫（個人会員）
- 2) 個人情報漏洩事故の実態と対策 講師：槌谷祐一（個人会員）

日本でスマホの普及が始まったのは2010年代であるが、その進化は早く、高機能化して、今ではパソコン以上に多くの人々に利用されるモバイル機器となった。主な情報セキュリティ・リスクとしては ①フィッシング ②マルウェア ③公共のWiFiでのハッキング ④リモートハッキング等がある。組織でモバイル機器を適切に管理する仕

組みとしてはMDM（モバイルデバイス管理）が使われ始めた。

個人情報の漏洩事故は2014年、2015年に大量の漏洩があり注目された。その後サイバーインシデントに関心が移っていたが、2023年度には大量の個人情報漏洩事故が発生し、再び注目されている。

2023年度の東京商工リサーチの調査報告で情報漏洩の原因を見ると ①ウイルス感染・不正アクセス 53.1% ②誤送信・誤表示 24.5% ③不正持ち出し 13.7% ④紛失・誤廃棄 8.5% である。サイバー攻撃等の外部要因によるものと組織内部に内在する要因がある。外部要因については巧妙化するサイバー攻撃に対し、セキュリティ強化が必要。内在する要因については、内部不正防止を目的としたガバナンス強化、個人情報についての取り扱いルールの厳格化が求められる。

詳細についてはメールマガジン2024/9-1号（通21号）をご参照ください。

ベトナム研修旅行記

個人会員 堀込 孝繁



このたび富野理事長はじめ5人の会員で、秋が深まる11月の日本から半袖で快適な温暖のベトナムへ5泊6日の研修&観光旅行に行ってきました。4個の台風で日程の半分は雨模様でしたが、活力あふれるベトナムの現況と歴史や食材を堪能してきました。

【食品加工工場の見学】

到着翌日に訪れたダナンはベトナム中部の中心都市で、大きな港湾やリゾート地を擁し、日系企業は200社余りも進出しています。空港から車で20分ほどの郊外にダニフーズ（D&N FOODS PROCESSING CO.LTD）の工場があります。1996年創業で、大阪の(株)大市珍味の子会社です。当初は商社のニチメンが資本参加していたため、両社の頭文字を取って「ダ・ニ・フーズ」とし、資本関係が無くなった今でも社名はそのままです。生産品目はおでんのネタやカニかまぼこなどの揚げ物・練り製品で、最近では高級食材のフカヒレも手掛けています。以前は日本向けの半製品が85%でしたが今は50%程度となり、ベトナム国内での需要の高まりに対応しています。一部はアメリカにも輸出しています。工場の従業員はベトナムと中国の女性が350人おり、シフトを組んでイワシなどの小骨を手作業で取っています。目が良くて手先が器用な女性向きの作業です。日本

人は坂東社長と小森エキスパートの2人のみですが、ベトナム人の管理者も育てています。

【ごみの埋立地を視察】

ベトナムではゴミは焼却せずに、全量を埋め立てています。ダナン郊外

の山間の埋立地の入口を視察しました。中には入れませんが大型のトラックが次々と埋立地にゴミを運び入れています。現在は電池の分別が始まったところであり、まだ社会問題になっていませんが、今後経済発展に伴って課題になるでしょう。そのときには日本の収集システムや焼却技術が貢献できるかもしれません。

【そのほかの見どころ】

フランス、アメリカ、中国との戦争を記録した軍事博物館、観光客が多く訪れる古都ホイアンにフエの遺跡、メコンデルタクルーズ、おいしいベトナム料理を満喫しました。

また、都市部の通勤時間帯の道路は自動車とオートバイが競うようにひしめいてベトナムの活気を感じました。



事務局からのお知らせ

2024年度下期は次に記載の通り企業支援活動並びに公益事業に取り組んでいます。

- 2024年9月～12月 横須賀市市民活動サポートセンターで開催している「いまさら相談室」を起点に横須賀市老人協議会や市内町内会に対し出前えスマホ教室を開催し、スマホの操作やセキュリティ対策を講習。引き続き活動をしています。
- 2024年10月15日 YRPにある(株)ニフコ様の技術開発センターの見学会を開催しました。会員及び企業OBの方15名が参加。詳細は本誌事業活動紹介をご覧ください。
- 2024年10月22日 企業向け「第9回情報セキュリティセミナー」をオンラインにて開催し外部より6社、計15名が参加。詳細は本誌事業活動紹介をご覧ください。
- 2024年11月中旬 理事長をはじめとする有志5名による6日間のベトナム工場見学ツアーを開催。今回は2018年に続き2回目。ベトナム現地企業と交流を行いました。詳細は上記事業活動紹介「ベトナム研修旅行記」をご覧ください。
- 2024年11月24日 観音崎自然博物館のご協力を得て、同所前において恒例の「子供ものづくり教室」を開催しました。晴天ではありましたが、寒さと風が強く来訪者は例年のように多数とはいきませんでした。
- 2024年12月20日 第2回理事会を開催。2024年度上期活動実績と通期見通しの報告があり、今後の活動について意見交換を行いました。
(事務局 佐々木 興吉)

羅針盤

世界の政治・経済の状態が激しく変化を始めています。1年間を振り返ってみれば非常に多くの闘争・事件・話題が発生しているわけですが、従来はそれらの情報を正確に、早く伝えることが難しかったのです。しかし、デジタル技術の活用(高速通信技術・コンピュータの高性能化と活用技術アプリケーション)によって、急速に時代が変わってきています。▼従来「人のうわさも七十五日」と、情報の伝達も時間の中で淘汰され、ある程度集約されて大きな塊になって人々に伝わってきました。ところが現在は非常に多くの声が一挙に伝わってくる、多様な情報が消えることなく伝播することで、多様性の時代といわれています。モノづくりや大切なシステムを世の中に展開していくには、それを受け入れる人々の状況をみて、展開する責任があると思います。▼武力をもって、人の財産

を奪う行為と強大な財力を持って、人の財産を圧迫する行為、そして一部の企業・国家がその集中力によって現状を極端に変えることが、人類にとって極めて危険な状況であることは明白です(覇権争い)。しかしSDGsを掲げた「2030アジェンダ」に基づく活動は、コロナパンデミックの影響や世界各地での武力闘争で危機的な状況にあると思われます。▼一定の利益目標の追求が求められる法人企業と違って、一般市民のボランティア活動と、近年広がってきているNPO法人の活動において、当会は理念として企業OBのシニア軍団と大手企業のような資金力の少ない中小企業が一体となって活動する場(プラットフォーム)の役割を担っていきたいのですが。

そのために今年度の残りの月日を頑張ります・・・は昭和の発想でしょうか？(俊)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：y-cluster@cluster.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先：046-847-6355

E-mail：y-cluster@cluster.jp

発行人：富野 養二郎



<https://www.cluster.jp>